# 特別支援教育と作業療法の連携と実践を深める

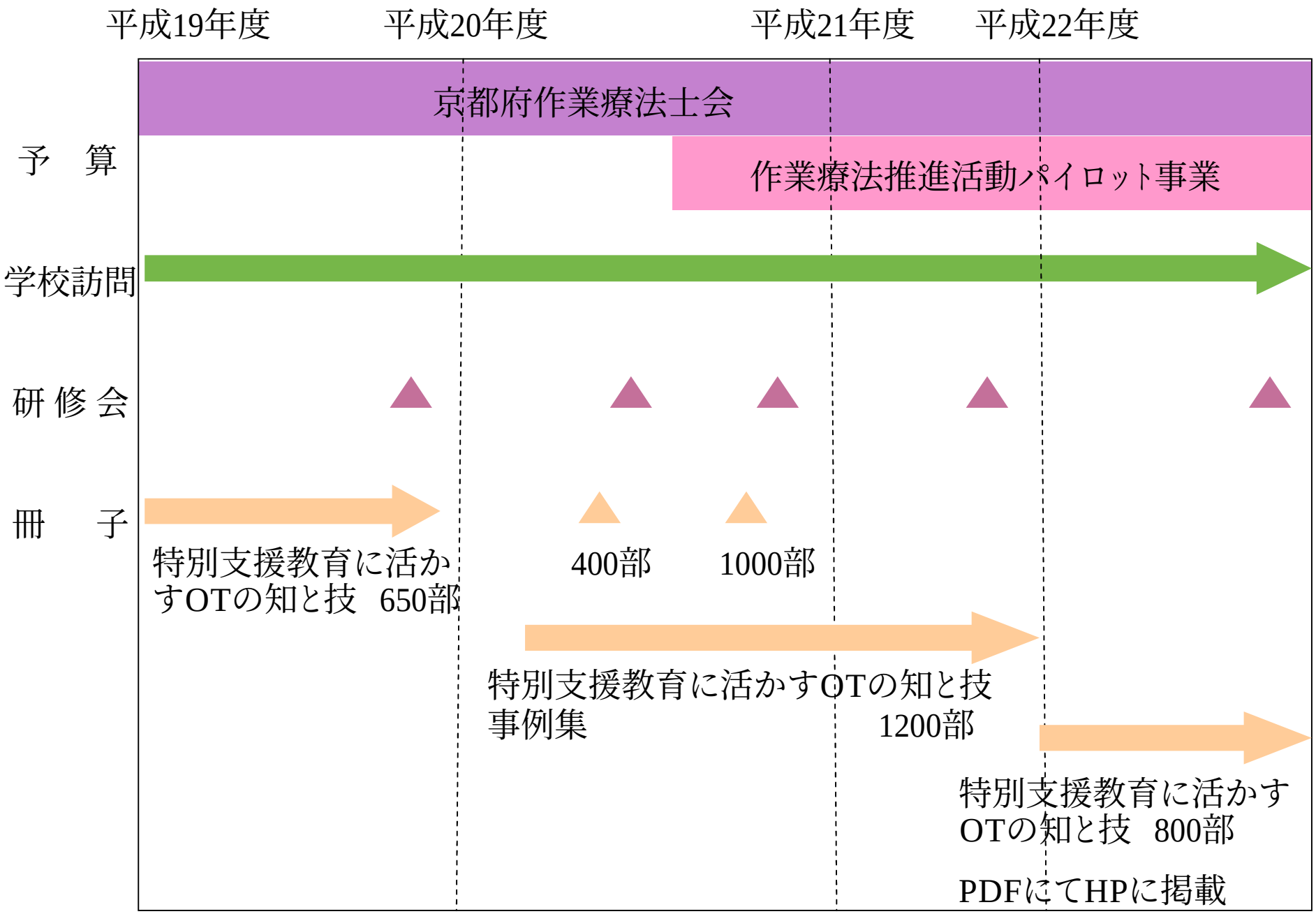
京都府作業療法士会
特別支援教育OTチーム委員・副会長
加藤　寿宏

# 平成19年度　京都府作業療法士会
# 特別支援教育ＯＴチーム設立目的

- 学校と個人の連携からシステムの連携へ
- 作業療法の啓発と地域貢献
- 学校での子どもたちの姿を作業療法士が知る
  - 医療・福祉現場での支援内容の充実
  - 学校という集団・学びの場での具体的支援
- 作業療法士の卒後教育

↓

子どもの生活の場である学校が
すべての子どもたちにとって有意義な場となるよう


平成19年度
平成20年度
平成21年度
平成22年度
京都府作業療法士会
予　算
作業療法推進活動パイロット事業
学校訪問
研 修 会
冊　　子
特別支援教育に活かすOTの知と技　650部
400部
1000部
特別支援教育に活かすOTの知と技
事例集
1200部
特別支援教育に活かす
OTの知と技　800部
PDFにてHPに掲載

# 平成22年度
# 京都府士会作業療法推進パイロット事業

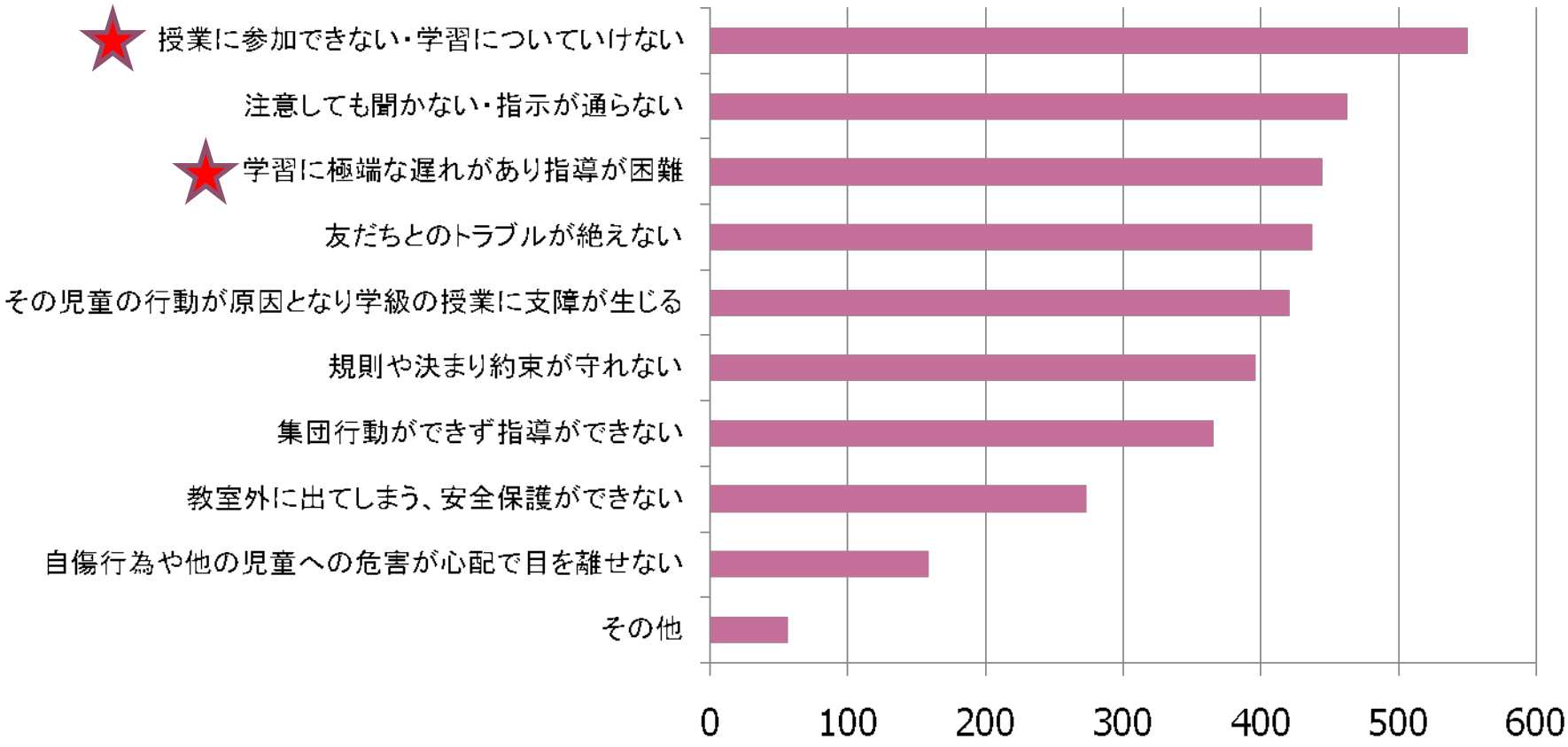
京都府では作業療法と特別支援教育の連携の「広がり」に一定の成果をあげている。特別支援教育に作業療法が根付くためには「広がり」のみでなく「深まり」も不可欠。

- 特別支援教育の対象児のほとんどが困難さをもつ教科学習に対する作業療法の有用性を京都府内を中心とし全国の学校教育現場に啓発・広報する。
- OTチームの活動や実践報告を公表し、特別支援教育と作業療法のあり方のモデルを全国に提示する。

- 学校訪問
- 研修会
- 特別支援教育に活かす OTの知と技　発行

# 平成20年度全国連合小学校長会（全連小）特別支援教育委員会調査結果

**発達障害のある児童に対する指導で困っている内容　n=764**

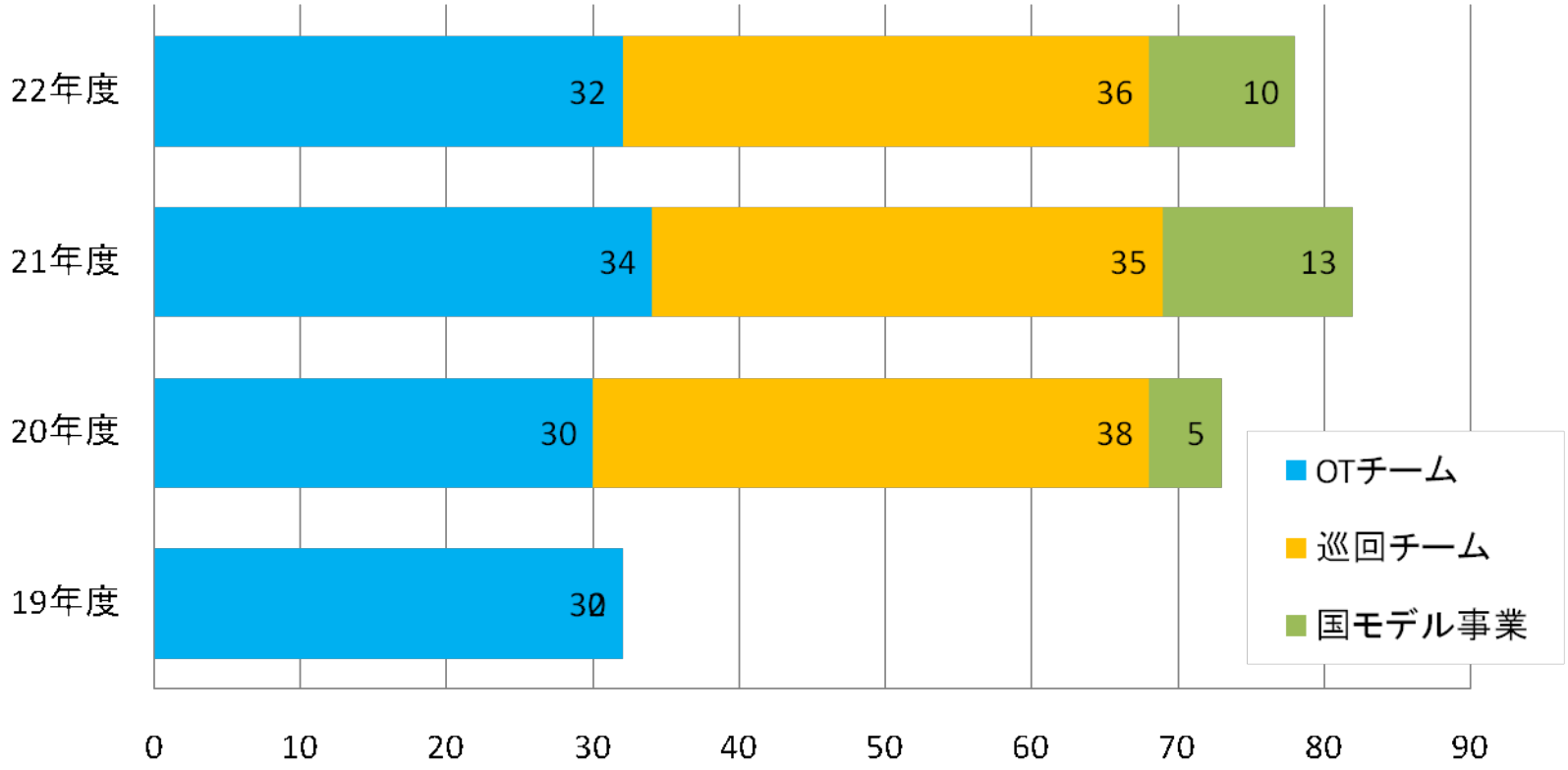


# OTチーム依頼　学校訪問流れ

- 学校からOTチームへ依頼
- OTチームで担当者2名以上決定
- 日程調整、情報収集
- 学校訪問（半日～1日）
- チームで事例検討
- 担当者報告書作成
- チームで報告書チェック
- 報告書の送付

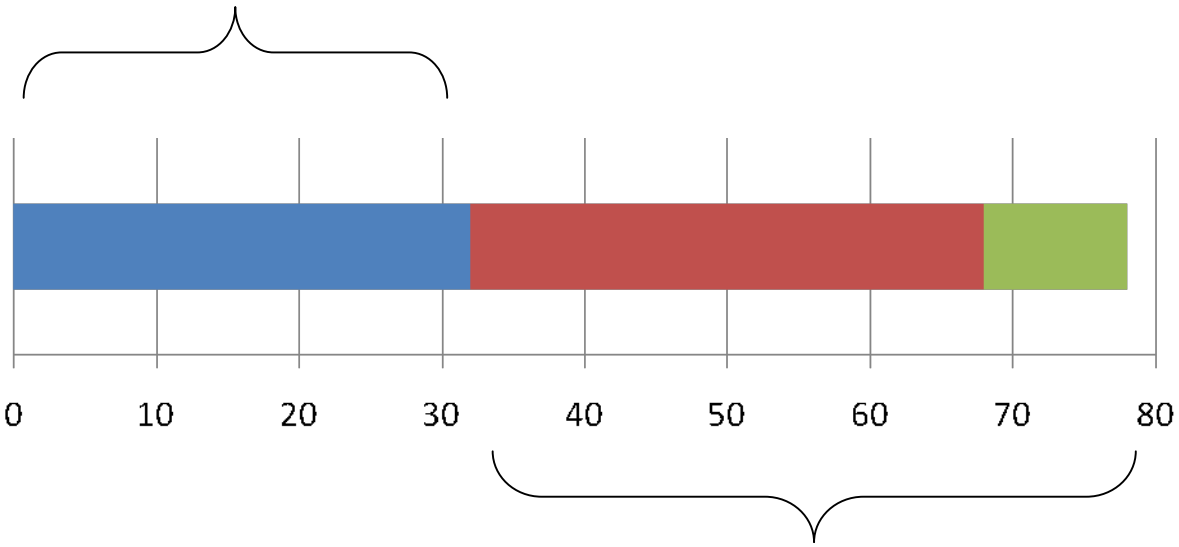
# 学校訪問数（校内研修含む）

22名の委員（大学院生2名）



# 平成22年度　学校訪問

OTチーム　校内研修17件･事例相談15件

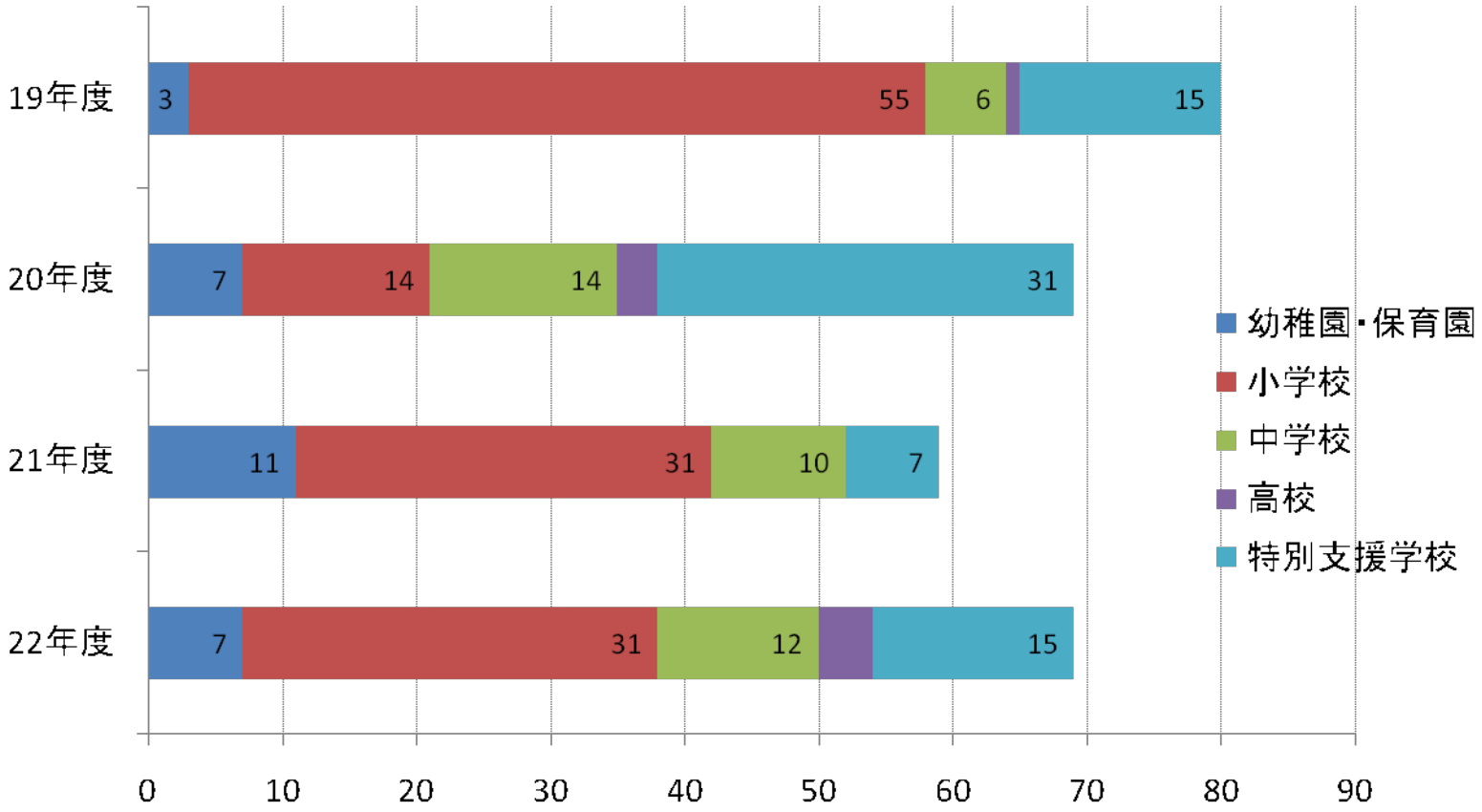



＋　メンバーが勤務する施設の地域療育等支援事業

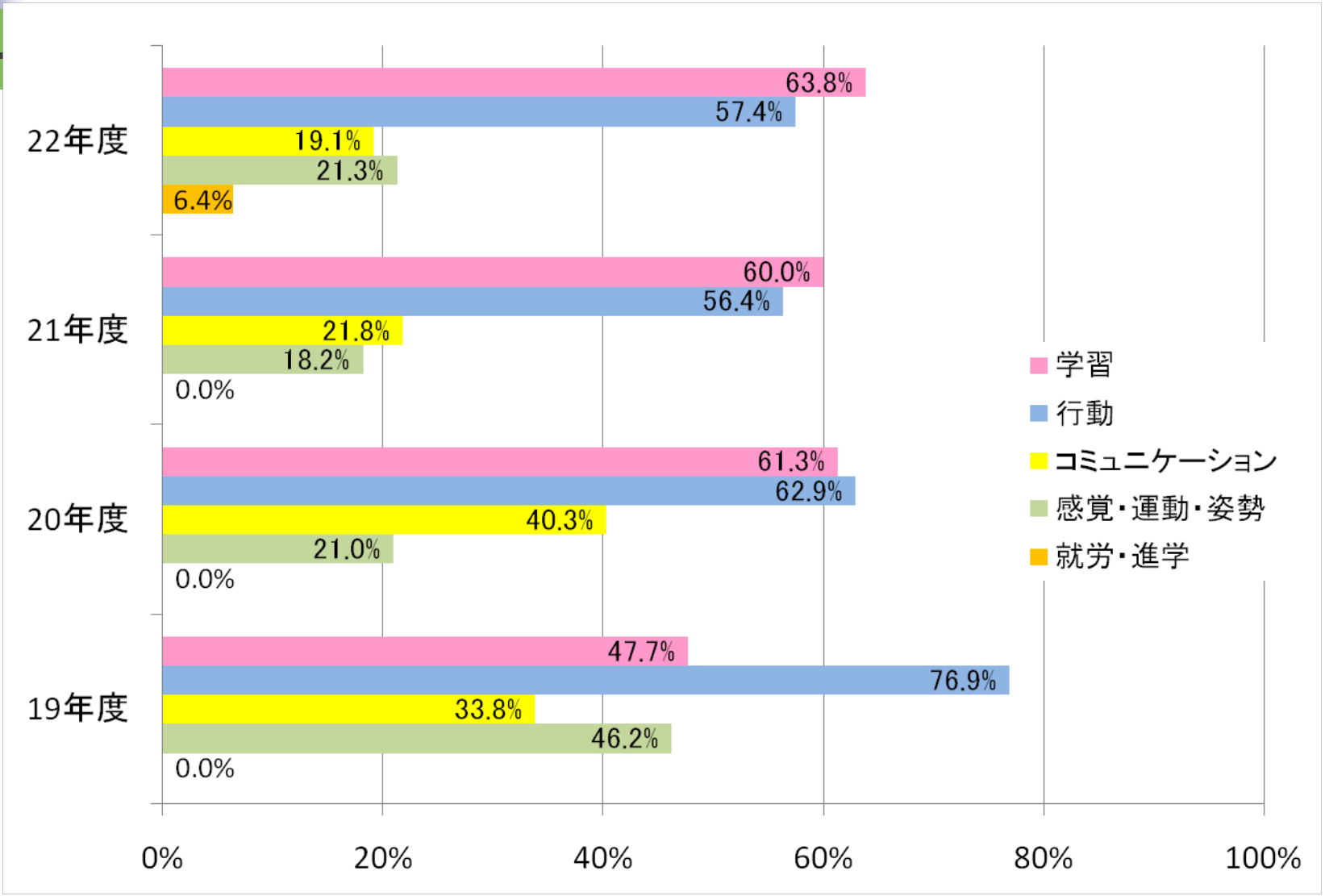
■京都府教育委員会委嘱による11ヶ所の地域支援センター巡回相談チーム

■国のモデル事業による特別支援学校訪問

# 相談事例数と所属


19年度
20年度
21年度
22年度
3
55
6
15
7
14
14
31
11
31
10
7
7
31
12
15
0
10
20
30
40
50
60
70
80
90
幼稚園・保育園
小学校
中学校
高校
特別支援学校

# 相談事例の主訴（一事例で複数主訴）
## 特別支援学校・就学前除く



# 学校訪問まとめ

- 平成２０年度から作業療法士の依頼窓口の半数以上は、予算が先方持ちの、京都府教育委員会委嘱の地域支援センターと国のモデル事業になってきている。

- 学校訪問数は平成２１年度と大きな変化はないが、これはニーズに変化がないのではなく、OTチームのマンパワーとしての問題であり、依頼を断ることも多くなっている。

# 学校訪問まとめ

- ２０年度より教科学習に関する主訴が増えており、３年間同様の比率を占めている。作業療法士が、学校での中心的活動であり、最終課題として残る教科学習に応える可能性がある職種と認識されてきたと考える。

- ２１年度より聴覚・音声系が関与する読みの問題、数概念、文章題理解など、主訴に対して十分に応えられない事例も増えており、２２年度も難しい事例が増えている。チーム内で情報を共有し、研鑽しあうことで、教育現場のニーズに応えうる知識と技術を高めることが急務な課題となっている。

- 特に教育カリキュラム、教育法など教師の専門知識を知る必要性を強く感じる。

# 特別支援教育に活かす作業療法の知と技

## OTからみた子どもの行動･学習･コミュニケーション

**Q43　文字が書けない、覚えられない、すぐに忘れる**

きみこちゃんは小学校１年生。クラスでは目立たないおとなしい女の子です。授業中はとても真面目ですが、文字を書くことが苦手です。バラバラな書き順になる[3, 4, 5]ことや、「ね」と「ぬ」など形の似た文字を間違える[1]ことがよくあります。宿題の漢字ドリルは時間がかかりますが、やっていくのを忘れたことはありません。しかし、何度書いても覚えられません。やっと一つ覚えても、新しい漢字を覚える頃には前に覚えた漢字を忘れてしまいます[9]。

家ではお母さんのお手伝いをよくします。しかし、食事の準備ではお盆に載せた茶わんやコップを落としそうになったり、コップに入ったお茶をこぼしてしまいます[4]。洗濯物はたたみ方が分からず、お母さんに１回ずつたたむ順番を教えてもらっています。１人ですると、どうしてよいか分からず、ぐちゃぐちゃになってしまいます[4, 5]。

[原因]

**１．似た形の文字を区別することが難しい可能性があります。**

「め」と「ぬ」、「わ」と「ね」など、形態が似た文字を区別するには、全体の中の部分に注目することが必要です。全体の中の部分をとらえることが難しく、覚えるときに混乱している可能性があります。

**２．空間の中でどの方向に書けばよいのかがわかりにくい可能性があります。**

空間において、自分自身の基準軸が曖昧であると、方向性をとらえることが苦手になります。文字は基本的に、上から下方向へ、あるいは左から右方向への動きの組み合わせで成り立ちます。どの方向に書けばよいのかがわかりにくければ、書き順や書く方向が不適切になるかもしれません。

**３．文字を一画ずつに分解する力、再構成する力が未熟である可能性があります。**

文字はいくつかの線や形の組み合わせによって形成されています。文字を覚えるときに線と線の重なりを理解し線や形ごとに分解して認識することや、書くときに分解した線や形を再構成することが苦手だと、文字の形や書き順を覚えることが難しくなる可能性があります。

**４．固有感覚を感じ取りにくい可能性があります。**

私たちは、文字を見て覚えるだけではなく、字を書くときの腕や手からの動きを通して覚えています。固有感覚を感じ取りにくいと、見て覚えることが中心になり、記憶にとどまりにくく、非効率な学習をしている可能性があります。筋緊張が低いなどの影響で、鉛筆を握る手や肩に力が入りすぎていたり、反対にしっかりと握ることが難しいと、鉛筆を操作する手の動き(固有感覚)を感じ取りにくくなります。

また、固有感覚が感じ取りにくいと、指先の微妙なコントロールが苦手になります。そのため、細かく手を動かすこと自体に努力を要します。そのような場合、線が震えてしまうこともあり、文字を覚える上で大切な、一定の感覚情報が積み重なりにくい可能性があります。姿勢の調節や、鉛筆の操作が未熟であると、これらの操作を意識しないとできないため、文字を記憶することに十分な意識が向けられなくなります。

**５．行為機能が未熟で一定の書き順で書くことが難しい可能性があります。**

文字を覚えるためには、一定の書き順で書くことが大切です、行為機能が未熟であると、順序立てがうまくいかず、一定の書き順にならず、毎回違う書き順で書くことがあります。文字の書き順が毎回異なるために、その都度得られる固有感覚が異なり、記憶にとどまりにくい可能性があります。

**６．文字の形と読みとのマッチングが難しい可能性があります。**

文字の形体を捉え、その「読み（音）」と対応させて記憶し保持する力、そして必要に応じて文字を取り出す力が不十分であるのかもしれません。

**７．似た音の聞き分けが難しい可能性があります。**

音の聞き分けが難しいと、さらに文字の形と読みのマッチングが難しくなります。

**８．文字を視覚的に記憶し、必要に応じて再現する力が不十分である可能性があります。**

文字の形体を視覚的に記憶する力や、その記憶を一定時間保持する力、必要に応じて記憶を再生する力が不十分である可能性があります。

**９．短期記憶が長期記憶に反映されにくく、新しいことを覚えると忘れてしまうのかもしれません。**

視覚、聴覚、固有感覚などいずれの感覚においても、短期記憶が長期記憶に反映されにくい可能性があります。

[対策]

１．文字の形態を捉える力を高めます。

①さまざまな形の中から、指示された形を見つけ出す活動を行う。

②部分を隠した文字を提示し、当てる（図）。

③同じ特徴の文字の分類をするような遊び（ね　も　ほ　ぬ　き　ま　⇒　ねぬ、もき、ほま）

④似たものの違いに気付きを促す遊び（間違い探しなど）やマッチング。

⑤運動の中で、直線、曲線、角などを経験するようにし、全身を使った運動を踏まえた上で、直線、曲線、角などを書く経験をする。

(a. まっすぐ走る、カーブを走る、クランク様のコースを走るなど。

作文を書くときなど、文字を覚え書くことそのものが第一の目的ではない課題の場合は、代替手段（シール、はんこなど）を使用します。

２．「上から下へ」や「左から右へ」といった基本的な方向性を伝えます。

①言語的に伝えるだけではなく、一画の始点に色を付ける、動きの方向に矢印を書くなどの視覚的な情報を用いる。

②斜面台や壁・黒板を使って文字を書く。

垂直方向が明確になり、基準軸が分かりやすくなるため、線の方向がとらえやすくなる。

３．はじめは教師が１つの文字をいくつかの形に分解して伝えてあげることが有効かもしれません。

①組み合わせる順番や形が分かりやすくなるよう、分解した形を言語化して歌のようにして伝える。

(a.「一番は“し”、二番は“一”、三番は“一”。合わせて、“も”。」

４．固有感覚を感じ取りやすくする工夫をします。

①鉛筆と紙との抵抗を大きくする。

## 平成２０年１月

- 学校でみせる子どもの姿を教員にインタビューし、その内容に答えるＱ＆Ａ方式の冊子
- Ｑ３５
- キーワード集 １５
- ５３頁
- 京都府内全小中学校・特別支援学校、ＯＴ協会会員２０５０部

## 平成２２年3月

- 具体的な事例を通し、ＯＴの評価・支援を解説する
- ２１事例（保育所・幼稚園２・小・中学校１４・特別支援学校5）
- ６７頁
- 京都府内全小中学校・特別支援学校、ＯＴ協会会員１０００部

## 平成２３年３月

- 初版を改訂し、教科学習内容を充実させる。具体的な子どもの姿をあげる
- Ｑ６６（生活・行動３７、学習２９）
- キーワード集 １７
- １０９頁
- 京都府内全小中学校・特別支援学校、８００部
- PDFにしダウンロードできるようにした

ＯＴが何を支援できるのかを提案

ＯＴの具体的な支援を事例を通して提示

教科学習も支援しうる職種であることを提示

ＯＴ紹介
連携のきっかけ

ＯＴを見せる
連携を具体化

ＯＴの有用性
連携を深め・強める

# まとめ

- OTが活動できる教育の場は地域により差はあるが、急速に増えている。ニードは山ほどあり、京都では非常勤ではあるが予算がつく仕事も急増している。

OTが特別支援教育に欠かせない存在となっても

- OTが教育現場に作業療法士として常勤として入る方法はない？（自立活動実習助手、特別免許状等により勤務が可能となっている地域もあるが、OTとしてではない。給与体系が教員と異なる、自立活動が中心となるため仕事に制限、また、地域の学校には？）

# 今後の課題

## 制度（法律）を作る以外にはない？

- OTチームとしては
  特別支援教育の中で何ができるのかを19年度から発信
  5年目の今年度に成果のまとめ

- 協会としては
  国との交渉